

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	科学官の運営等	担当部局庁	研究振興局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度・なし	担当課室	振興企画課学術企画室	学術企画室長 中野理美				
会計区分	一般会計	政策・施策名	基礎研究の充実及び研究の推進のための環境整備 区-1 学術研究の振興					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	文部科学省組織規則 第62条第1項・第2項・第5項、 第69条の2第1項・第2項・第4項	関係する計画、 通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	専門的知見を有する大学等の研究者を科学官・学術調査官として採用し、研究現場の実態に即した施策の企画・実施により我が国の学術研究を振興する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	科学官は、学術に関する重要事項の企画及び立案に参画する。 学術調査官は、学術に関する事項についての調査、指導及び助言に当たるほか、研究経験のある専門的知識を持ったプログラム管理者として、科学研究費補助金の一元的管理・評価等を行う。 科学官および学術調査官が上記職務にあたった際の給与および旅費を支給するものである。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	38	34	32	32	33	
		繰越し等	—	—	△1	—	—	
		計	38	34	31	32	33	
	執行額	30	26	26	—	—		
執行率(%)	80.1%	76.5%	83.9%	—	—			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	本事業は、科学官および学術調査官に対して給与および旅費を支給するものであり、成果について定量的な指標を用いて示すことができない。			—	—	—	—	—
			達成度	%	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	本事業は、科学官および学術調査官に対して給与および旅費を支給するものであり、成果について定量的な指標を用いて示すことができない。			—	—	—	—	—
				( — ) ( — ) ( — )				
単位当たりコスト	(円/ )		算出根拠	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものであり、1単位当たりのコストを記載することはなじまない。				
平成25・26年度 予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	非常勤職員手当	19百万円	20百万円	「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」(平成24年法律第2号)による給与減額支給措置期間終了に伴う非常勤職員手当の増 1百万円				
	委員等旅費	13百万円	13百万円					
計	32百万円	33百万円						

事業所管部局による点検																		
		項目	評価	評価に関する説明														
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	科学官・学術調査官が持つ卓越した専門的知識や経験、指導・助言等が、審議会等の学術の振興に関する企画立案の場で活かされ、我が国の先駆的・独創的な学術研究の推進に寄与しており、国の円滑な政策立案の観点から優先度は高い。														
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○															
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○															
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		—	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものである。														
	受益者との負担関係は妥当であるか。		—															
	単位当たりコストの水準は妥当か。		—															
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—															
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○															
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—																
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		—	審議会等の審議に参画し、各種報告等の取りまとめや策定や支援事業の円滑な運営などに寄与している。例えば、科研費制度において、「審査委員候補者の推薦・選考」、「各委員会の議事運営」、「応募者への審査所見案の作成」、「中間・事後評価の所見案の作成」など、審査・評価を行う上で重要な役割を担っている。そのほか、現役の研究者としての知見をもとに科研費制度の改善・充実のために必要な助言をいただいております、それが科研費の制度改善等に活用・反映されている。														
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		—															
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○															
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業番号</th> <th>類似事業名</th> <th>所管府省・部局名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			事業番号	類似事業名	所管府省・部局名									
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名															
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策の企画・立案への参画や調査・指導・助言により、審議会での提言や施策の円滑な実施の形で成果を上げている。</li> <li>科学官・学術調査官が持つ専門的な知見をより効果的に活用するために、審議会等の審議への参加だけでなく、例えばメール等を活用して指導・助言を仰ぐなど効率的な予算執行に向け成果を上げる工夫もしており、引き続き事業の効率的な実施に努める。</li> </ul>																	
外部有識者の所見																		
外部有識者による点検対象外																		
行政事業レビュー推進チームの所見																		
事業内容の改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>事業評価の観点:この事業は、学術に関する重要事項の企画・立案に参画する科学官及び、学術に関する事項についての調査、指導、助言等にあたる学術調査官に対し、給与及び旅費を支給するものであり、事業成果等の観点から検証を行った。</li> <li>所見:本事業は、文部科学省組織規則に基づき科学官・学術調査官の給与及び旅費を支給する事業であり、定量的又は定性的な成果目標実績などを算出することはなじまないが、科学官・学術調査官は審議会等の円滑な運営や科研費制度における審査・評価等に重要な役割を担っている。平成22、23年度決算において多くの不用額が生じていたが、平成22年度行政事業レビューの指摘を受け、平成24年度概算要求額への反映を行った結果、予算の執行率について改善されている。今後も事業の運営方法を工夫し、より計画的な予算執行に努めるべきである。</li> </ol>																	
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況																		
執行等改善	本事業は、当該年度の会議の開催状況や出席状況によって予期せぬ不用が出る場合があるが、メール等を活用することで効率的な執行を行う工夫を図ってきたところである。学術諸政策の企画・立案にあたり、科学官・学術調査官の知見がより一層求められている現下の状況を踏まえ、平成26年度は同様の取組を続けるだけでなく、計画的な予算執行に資するため、科学官会議の実施方法を見直し、研究現場の実態に即したより効果的な学術振興施策の企画・立案に努める。																	
備考																		
関連する過去のレビューシートの事業番号																		
	平成22年	0235	平成23年	0230	平成24年	0243												

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

A. 文部科学省  
26百万円

非常勤職員手当 15百万円  
委員等旅費 11百万円

〔科学官・学術調査官の職務の状況を把握し、給与および旅費を支給する。〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A. 文部科学省			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
非常勤職員手当	科学官・学術調査官の給与	15			
委員等旅費	科学官・学術調査官に支出する旅費	11			
計		26	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0